

クビアカツヤカミキリをくい止めろ！

～標本づくりや展示を活用して～

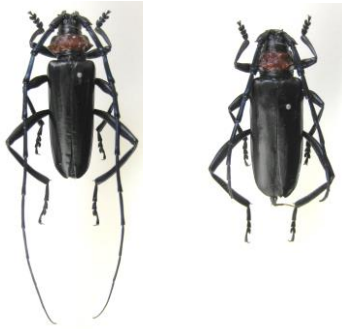
栃木県立博物館
栗原 隆

1. クビアカツヤカミキリとは

- ・昆虫のカミキリムシの仲間
- ・中国大陸原産の外来種（特定外来生物：2018/1/15 指定）
- ・モモやウメの果樹害虫。ソメイヨシノなどのサクラも加害



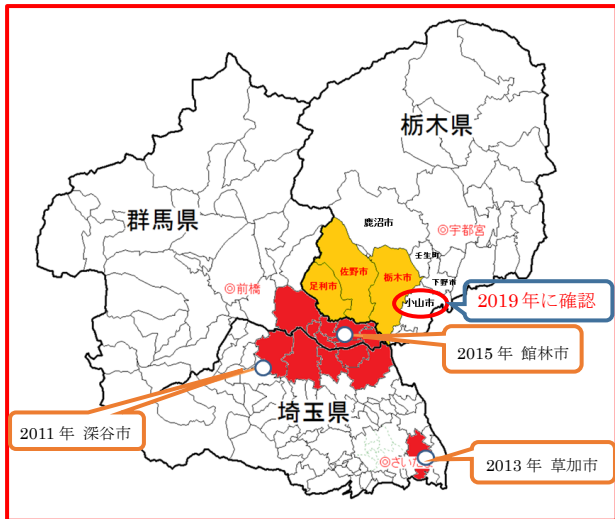
左はサクラの樹幹上の成虫。
下は地面に落ちたフラス。



体 長：25～40mm
産卵数：数百～千
一世代：2～3年

2. 栃木県における現状

- ・南部の足利市、佐野市、栃木市、小山市で被害
- ・県の農政部と環境森林部が共同で対応
→ 森林総合研究所、市町とも連携



左は北関東のクビアカツヤカミキリの分布図。
県内では2016年に足利市で見つかった以降、東へ分布拡大している。
また、栃木市では北への分布拡大も見られるため、予断を許さない状況。

これ以上の
拡散を防ぎたい！！

栃木県環境森林部自然環境課が作成したものを改変

3-1. 博物館での取り組み 1 展示

- ・2018年8～10月にトピック展示開催
- ・できるだけ多くの人に周知 → 無料ゾーン



トピック展示の様子
クビアカツヤカミキリの特徴や生態、栃木県での現状などをパネルで展示。
成虫、幼虫が出す木くずと糞が混じったフラスの他、間違いやすいクワカミキリなどのフラスや外見が似ているカミキリムシ類の標本も展示。

3-2. 博物館での取り組み 2 同定作業

- ・県民からの問い合わせの対応 自然環境課 → 博物館、農試
- 多くはフラス：クビアカツヤカミキリ以外ではウスバカミキリやゴマダラカミキリ、コスカシバ、オオゾウムシ、シリアゲアリ類が多い
- 幼虫の問い合わせ：ウスバカミキリが多い
- *博物館への問い合わせは、年間30～50件

3-3. 博物館での取り組み 3 標本づくり講座

- ・標本づくり講座でクビアカツヤカミキリを用いる試み
 - ①成虫の駆除に貢献
 - ②駆除個体の有効利用
 - ③参加者に実物を提供できる効果
 - ④現況の情報収集
 - ⑤講座後の普及効果
 - ⑥情報のフィードバック

↓佐野市郷土博物館での標本づくり講座の様子



左の写真は、クビアカツヤカミキリについての概要を説明しているところ。
小学生低学年でもわかるように、漢字を少なめにして短く説明(20～25分)。



概略の説明の後には、クビアカツヤカミキリの標本づくり。
子供たちが選び、一つずつ持っていく。その際に大きさや触角の長さの違いに気づき、質問する子供もいた。



子供たちが作製した標本。それぞれ自由に作るのが標本作製の醍醐味。
一つだけ「左右対称にすると格好良く見える」と伝えたので、その点は意識したことがうかがえる。
この標本を学校に持っていき、友達にクビアカツヤカミキリがどんな昆虫かを教えてくれればと思う。



地域移動博物館「みんなおいでよ！昆虫ワールド」を2019/7/20～9/1まで開催。
クビアカツヤカミキリについても特別に展示し、佐野市の方々に県内での現状を解説し、情報提供を呼びかけた。

講座のなかで、「学校の登下校中に見たことある」や「ウメの木にいた」などの情報が得られた。

↓栃木市（左：大宮公民館）と宇都宮市（右：博物館）でも開催



4. まとめ

博物館の特性を活かした、クビアカツヤカミキリに関する普及啓発活動として、以下の3つを行った。

- ①展示
- ②同定作業
- ③標本づくり講座

今後、特に標本作製講座がきっかけに、情報の集積や地域住民の駆除活動等の促進につながることを期待する。

→ これ以上の分布拡大を防ぎたい！！

今後は、これまでの取り組みに加え、住民参加型の駆除活動など、新たな取り組みを行いたい。

謝辞

本発表は以下の方々の協力により行うことができました。心より御礼申し上げます。
森林総合研究所の加賀谷悦子氏、栃木県農業試験場の春山直人氏、佐野市郷土資料館の山田友成氏、栃木県農政部経営技術課及び環境森林部自然環境課の担当者の皆様、栃木県立博物館自然課学芸嘱託員の鈴木信也氏。